



駒林小 学校便り

令和5年度
5月号

薫風を感じながら

学校長 西尾武泰

職員室から見える木々の新緑がまぶしく、さわやかな風を感じる季節となりました。校庭では様々な植物が順番を競うように芽吹いています。どのような花が咲くのかとワクワクしながら子どもたちは元気にすごしています。

新年度が始まり1か月がたちました。1か月たつと子どもたちは新しい教室にも慣れ、学校全体も落ち着いてきました。その中でも、まずは6年生が一気に最上級生らしくなりました。教職員に対する言葉づかいや学校生活での振る舞いが大人っぽくなり、たてわり活動や委員会活動でも学校のリーダーとしての自覚ある姿が見られてきました。また、「駒林小の心」として下級生を引っ張ろうとする姿も見え始めました。先輩方がこれまで培ってきた駒林小の伝統をきちんと引き継いでいる姿を見て、とても嬉しく思いました。一方、4月に入学した1年生は学校探検も終わり徐々に学校生活のリズムが整ってきました。私が南門のところで登校時に見守りをしていると、きちんと声に出して挨拶が出来るようになってきた子も増えました。また、休み時間には廊下から校長室を興味津々で覗きながら手を振ってくる子もいました。そのような1年生の元気で屈託のない瞳を見て、この子たちがこの先も安全で幸せに過ごせるような学校の環境を作っていかなければいけないと、気持ちが引き締まる思いにもなりました。

先月は3年ぶりに保護者が集合型の学年・学級懇談会を行いました。私たちが予想していたよりも多数の参加があり関心の高さがよくわかりました。これまでの3年間はコロナ禍によるオンラインでの懇談会でしたので、来校しての集合型の懇談会には初めて参加した保護者の方もいらっしゃったと思います。同じように、初めて集合型の懇談会を経験する教職員もいました。懇談会終了後、職員室にもどってきて、たくさんの保護者と直接話をしたことにより、生の声を聞いたことがとてもありがたく、今後の学級経営にいかしていきたいと発言している教職員が多くいました。

5月からは新型コロナウイルスが5類に移行されますので、それに合わせての生活様式の変更もあると思います。また個人面談や修学旅行などもありますが、これらの一つ一つの行事を丁寧に行い、令和5年度がスムーズに流れるための足固めにしていきたいと考えています。これからもご支援とご協力をお願いします。

